

開設年度		開講部局	
2010		共通教育	
科目名			
公共哲学論			
英語科目名			
Public philosophy theory			
前後期		履修期	開講区分
後期		2期	毎週
科目形態	単位数	大分類(科目)	中分類(分野)
講義	2	教養科目	分野2
受講学部学科			
全			
担当教員		担当教員所属	
吉田 健一		稲盛アカデミー	
連絡先(TEL)		連絡先(MAIL)	
099-285-3756		k5621643@kadai.jp	
オフィスアワー(授業時間外の対応)			
水曜午後。 事前に連絡すれば、上記以外でも可。			
共同担当教員			
キーワード1		キーワード2	
視野・判断力・探求能力		社会的貢献意識	
授業概要(目的・内容・方法)			
<p>今日、我々を取り巻く環境は、公共性に関する新たな思索とそれを論理化する学問を必要としている。しかし、所謂「哲学」は、専門分化して、現実社会をどうするか?という大きな問題に対処できなくなって来てしまった。現在では「文学部」的な学部の一部の専門家の占有物となって、社会的な発言権を失いつつある。</p> <p>一方、個別具体的な社会科学も実証主義に陥るばかりで、あるべき社会像を議論するという大きな志を失っている。現実を分析する事も大事ではあるが、社会現象を分析すると共に、社会に対する理想、哲学がなければ、ここ数年来の日本の現状に見られるようにひたすら現実追認の社会しかやって来ない。</p> <p>「公共哲学」は、人間はどうあるべきか?どう生きるべきか?という哲学的なテーマと、社会はどうあるべきか?政治や諸制度はどう構築されるべきか?という、社会科学の課題を結ぶものである。</p> <p>本講義の目的は、近世から近代・現代の日本の思想家を概観する事によって、「政治」・「公共」・「哲学」・「思想」をキーワードに、今後のあるべき人間社会を考える事である。</p>			
学習目標			
<p>1)日本の近現代史の中で、「公共」について思索した思想家・学者の思想について理解する。</p> <p>2)今日の日本の抱える問題を具体的に解決する方策として、過去に学び未来を作るという観点で新しい公共性について考察する。</p>			
授業計画(15回に分け、回数、授業内容、自学自習等)			
<p>1.はじめに 日本の近世・近現代の思想について</p> <p>2.江戸の儒学 - 1 (伊藤仁斎)</p> <p>3.江戸の儒学 - 2 (荻生徂徠)</p> <p>4.石田梅岩と商人道 - 1</p> <p>5.石田梅岩と商人道 - 2</p> <p>6.幕末の思想 - 1 (横井小楠)</p> <p>7.幕末の思想 - 2 (横井小楠)</p> <p>8.明治の思想家(明六社の思想家)</p> <p>9.自由民権運動の思想家 - 1 (中江兆民)</p> <p>10.自由民権運動の思想家 - 2 (植木枝盛)</p> <p>11.大正デモクラシーの思想家 - 1 (長谷川如是閑)</p> <p>12.大正デモクラシーの思想家 - 2 (吉野作造)</p> <p>13.戦後の思想(丸山真男他)</p> <p>14.1970年代以降の状況</p>			

受講要件	成績の評価基準
<p>特にないが、近世・近現代の日本で、「公共哲学」について思索した、思想家・学者に関心をもっていると良い。</p>	<p>全て出席を前提として (1) 毎回のフィードバックシート (50%) (2) 期末レポート (50%) を総合的に評価。出席そのものを評価の対象とはしない。 暗記による知識の定着を問うものは実施せず、感じたこと、考えた事をどれだけ自身の言葉で表現できるかをフィードバックシート、レポートで問う。オリジナリティを評価の対象とする。但し、レポート執筆に当たって最低限の知識は必要となる為、講義に全て出る事をレポート提出の条件とする。</p>
教科書	参考書
<p>特に指定しない。参考文献を随時紹介する。受講者は任意に関心のある右記の参考書を読み理解を深める事が望ましい。</p>	<p>『公共哲学とは何か』山脇直司・ちくま新書・2004年、『伊藤仁斎』石田一良・吉川弘文館・昭和35年、『佐久間象山・横井小楠』日本の名著・中央公論社・昭和45年、『横井小楠』圭室諦成・吉川弘文館・1967年、『横井小楠 維新の青写真を描いた男』徳永洋・新潮新書・2005年、『丸山真男講義録』第1冊 - 第7冊・東京大学出版会・1998年、他多数。講義中に随時紹介する。</p>
その他	